

IBM Contact Optimization

バージョン 9 リリース 1.1

2014 年 11 月 26 日

インストール・ガイド

IBM

お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、47 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM Contact Optimization バージョン 9、リリース 1、モディフィケーション 1、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： IBM Contact Optimization
Version 9 Release 1.1
November 26, 2014
Installation Guide

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

© Copyright IBM Corporation 2003, 2014.

目次

第 1 章 インストールの概要	1	ACOOptAdmin ツールの構成	27
インストール・ロードマップ	1	中国語、日本語、または韓国語のユーザー用の	
インストーラーの動作	2	Contact Optimization の構成	27
インストールのモード	3	Contact Optimization サーバーの始動	28
Contact Optimization の資料とヘルプ	3	Contact Optimization のテーブルのマッピング	28
		Contact Optimization システム・テーブル・マッピ	
第 2 章 Contact Optimization のインス		ングのリファレンス	29
トールの計画	7	Contact Optimization コンタクト履歴テーブル・マ	
前提条件	7	ッピングのリファレンス	30
Contact Optimization インストール・ワークシート	9	Contact Optimization のインストールの検証	30
IBM EMM 製品のインストール順序	11		
第 3 章 Contact Optimization のインス		第 5 章 Contact Optimization の複数パ	
トール	15	ーティションの構成	33
GUI モードを使用した Contact Optimization のイン		複数パーティションの動作	33
ストール	16	Contact Optimization の複数パーティションのセット	
Contact Optimization と EAR ファイルおよび		アップ	34
WAR ファイル	21	複数パーティションにおける ACOServer の構成	35
コンソール・モードを使用した Contact Optimization			
のインストール	21	第 6 章 Contact Optimization のアンイ	
Contact Optimization のサイレント・インストール	23	ンストール	37
サンプル応答ファイル	24		
第 4 章 Contact Optimization の構成 25		第 7 章 configTool	39
Contact Optimization システム・テーブルの作成とデ		IBM 技術サポートに問い合わせる前に	45
ータの設定を手動で行う	25	特記事項	47
Contact Optimization を手動で登録する	26	商標	49
Contact Optimization 構成プロパティーを手動で設定		プライバシー・ポリシーおよび利用条件に関する考	
する	26	慮事項	49

第 1 章 インストールの概要

Contact Optimization のインストールは、Contact Optimization をインストールして構成するときに完了します。Contact Optimization インストール・ガイドには、Contact Optimization のインストールおよび構成に関する詳細情報が記載されています。

『インストール・ロードマップ』セクションを利用すると、「Contact Optimization インストール・ガイド」の使用について幅広く理解することができます。

インストール・ロードマップ

Contact Optimization のインストールに必要な情報を簡単に見つけるには、インストール・ロードマップを使用します。

以下の表で、Contact Optimization のインストールに必要なタスクを確認できます。

表 1. Contact Optimization インストール・ロードマップ

トピック	情報
『第 1 章 インストールの概要』	この章では、以下の情報が提供されます。 <ul style="list-style-type: none">• 2 ページの『インストーラーの動作』• 3 ページの『インストールのモード』• 3 ページの『Contact Optimization の資料とヘルプ』
7 ページの『第 2 章 Contact Optimization のインストールの計画』	この章では、以下の情報が提供されます。 <ul style="list-style-type: none">• 7 ページの『前提条件』• 9 ページの『Contact Optimization インストール・ワークシート』• 11 ページの『IBM EMM 製品のインストール順序』
15 ページの『第 3 章 Contact Optimization のインストール』	この章では、以下の情報が提供されます。 <ul style="list-style-type: none">• 16 ページの『GUI モードを使用した Contact Optimization のインストール』• 21 ページの『コンソール・モードを使用した Contact Optimization のインストール』• 23 ページの『Contact Optimization のサイレント・インストール』

表 1. Contact Optimization インストール・ロードマップ (続き)

トピック	情報
25 ページの『第 4 章 Contact Optimization の構成』	<p>この章では、以下の情報が提供されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 25 ページの『Contact Optimization システム・テーブルの作成とデータの設定を手動で行う』 • 26 ページの『Contact Optimization を手動で登録する』 • 26 ページの『Contact Optimization 構成プロパティを手動で設定する』 • 27 ページの『ACOOptAdmin ツールの構成』 • 27 ページの『中国語、日本語、または韓国語のユーザー用の Contact Optimization の構成』 • 28 ページの『Contact Optimization サーバーの始動』 • 28 ページの『Contact Optimization のテーブルのマッピング』 • 30 ページの『Contact Optimization のインストールの検証』
33 ページの『第 5 章 Contact Optimization の複数パーティションの構成』	<p>この章では、以下の情報が提供されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 33 ページの『複数パーティションの動作』 • 34 ページの『Contact Optimization の複数パーティションのセットアップ』 • 35 ページの『複数パーティションにおける ACOServer の構成』
37 ページの『第 6 章 Contact Optimization のアンインストール』	<p>この章では、Contact Optimization のアンインストール方法について説明します。</p>
39 ページの『第 7 章 configTool』	<p>この章では、configTool ユーティリティーの使用方法について説明します。</p>

インストーラーの動作

どの IBM® EMM 製品をインストールまたはアップグレードする場合も、スイート・インストーラーおよび製品インストーラーを使用する必要があります。例えば Contact Optimization をインストールする場合は、IBM EMM スイート・インストーラーおよび IBM Contact Optimization インストーラーを使用する必要があります。

IBM EMM スイート・インストーラーおよび製品インストーラーを使用する前に、以下のガイドラインを確認してください。

- スイート・インストーラーおよび製品インストーラーは、製品のインストール先のコンピューターの同じディレクトリーにある必要があります。マスター・インストーラーが含まれるディレクトリーに複数のバージョンの製品インストーラー

が存在する場合、マスター・インストーラーによってインストール・ウィザードの IBM EMM 製品画面に表示されるのは、必ず製品の最新バージョンとなります。

- IBM EMM 製品のインストール直後にパッチをインストールする場合は、パッチのインストーラーがスイートおよび製品のインストーラーと同じディレクトリーにあるようにしてください。
- IBM EMM インストールのデフォルトの最上位ディレクトリーは /IBM/EMM (UNIX) または C:\IBM\EMM (Windows) です。ただし、このディレクトリーはインストール時に変更できます。

インストールのモード

IBM EMM スイート・インストーラーは、GUI モード、コンソール・モード、またはサイレント・モード (無人モードとも呼ぶ) のいずれかのモードで実行できます。Contact Optimization をインストールする際には要件に見合ったモードを選択してください。

GUI モード

グラフィカル・ユーザー・インターフェースを使用して Contact Optimization をインストールするには、Windows の GUI モード、または UNIX の X Window System モードを使用します。

コンソール・モード

コマンド・ライン・ウィンドウを使用して Contact Optimization をインストールするには、コンソール・モードを使用します。

注: コンソール・モードでインストーラー画面を正しく表示するには、UTF-8 文字エンコードをサポートするように端末ソフトウェアを構成してください。ANSI などその他の文字エンコードでは、テキストが正しくレンダリングされず、一部の情報が読み取れなくなります。

サイレント・モード

Contact Optimization を複数回インストールするには、サイレント・モード (無人モード) を使用します。サイレント・モードは、インストールに応答ファイルを使用し、インストール・プロセスの間にユーザー入力が必要としません。

Contact Optimization の資料とヘルプ

Contact Optimization には、ユーザー、管理者、および開発者向けの資料とヘルプが用意されています。

以下の表は、Contact Optimization を使用し始める際の情報を見つける参考にしてください。

表2. 準備と開始

タスク	資料
新機能、既知の問題、および回避策を表示する	<i>IBM Contact Optimization</i> リリース・ノート
Contact Optimization データベースの構造について知る	<i>Contact Optimization</i> システム・テーブルおよびデータ・ディクショナリー
Contact Optimization をインストールまたはアップグレードする	次のいずれかのガイドを参照してください。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>IBM Contact Optimization</i> インストール・ガイド • <i>IBM Contact Optimization</i> アップグレード・ガイド

以下の表は、Contact Optimization を構成して使用する際の情報を見つける参考にしてください。

表3. Contact Optimization の構成と使用

タスク	資料
<ul style="list-style-type: none"> • Contact Optimization セッションを作成する • Contact Optimization プロセスを構成する • マーケティング・キャンペーンにおける最適化されたコンタクトを使用する 	<i>IBM Contact Optimization</i> ユーザー・ガイド

以下の表は、Contact Optimization を使用していて問題に直面したときにヘルプを得る際の情報を見つける参考にしてください。

表4. ヘルプを得る

タスク	指示
<ul style="list-style-type: none"> • Contact Optimization のインストールにおけるエラーのトラブルシューティング • Contact Optimization のセッションにおけるエラーのトラブルシューティング • Contact Optimization のパフォーマンスを改善させる 	<i>IBM Contact Optimization</i> トラブルシューティング・ガイド
オンライン・ヘルプを開く	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「ヘルプ」 > 「このページのヘルプ」を選択すると、コンテキスト・ヘルプ・トピックが開きます。 2. ヘルプ・ウィンドウの「ナビゲーションの表示 (Show Navigation)」アイコンをクリックすると、ヘルプ全体が表示されます。

表 4. ヘルプを得る (続き)

タスク	指示
PDF を入手する	<p>次のいずれかの方法を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「ヘルプ」 > 「製品資料」を選択すると、Contact Optimization PDF にアクセスできます。 • 「ヘルプ」 > 「IBM EMM Suite のすべての資料」を選択すると、使用可能なすべての資料にアクセスできます。
サポートを得る	<p>http://www.ibm.com/support から IBM サポート・ポータルにアクセスします。</p>

第 2 章 Contact Optimization のインストールの計画

Contact Optimization のインストールを計画している場合、システムが正しくセットアップされていること、環境が障害に対処できるように構成されていることを確認する必要があります。

前提条件

IBM EMM 製品をインストールまたはアップグレードするには、その前に、ご使用のコンピューターがすべてのソフトウェアおよびハードウェアの前提条件を満たしていることを確認する必要があります。

システム要件

システム要件について詳しくは、「推奨ソフトウェア環境および最小システム要件」ガイドを参照してください。

ネットワーク・ドメイン要件

スイートとしてインストールされる IBM EMM 製品は同じネットワーク・ドメインにインストールする必要があります。これは、クロスサイト・スクリプティングで生じ得るセキュリティー・リスクを制限することを目的としたブラウザ制限に準拠するためです。

重要: 最高のパフォーマンスを得るには、Contact Optimization を専用のシステムにインストールし、そこに他の IBM EMM 製品をインストールしないでください。Contact Optimization は、計算およびデータ処理リソースを大量に必要とします。Contact Optimization を専用環境で作動させると、パフォーマンス調整において最大の制御性と柔軟性を得られます。

JVM 要件

スイートに含まれる IBM EMM アプリケーションは、専用 Java™™ 仮想マシン (JVM) に配置する必要があります。IBM EMM 製品は、Web アプリケーション・サーバーが使用する JVM をカスタマイズします。JVM に関連するエラーが発生する場合、IBM EMM 製品専用の Oracle WebLogic または WebSphere®ドメインを作成する必要があります。

知識要件

IBM EMM 製品をインストールするには、製品をインストールする環境全般に関する知識が必要です。この知識には、オペレーティング・システム、データベース、および Web アプリケーション・サーバーに関する知識が含まれます。

インターネット・ブラウザ設定

ご使用のインターネット・ブラウザが、以下の設定に準拠していることを確認してください。

- ブラウザーは Web ページをキャッシュに入れてはなりません。
- ブラウザーはポップアップ・ウィンドウをブロックしてはなりません。

アクセス権限

インストール作業を完了するため、以下のネットワーク権限を保持していることを確認してください。

- 必要なすべてのデータベースに対する管理アクセス権限。
- Web アプリケーション・サーバーおよび IBM EMM コンポーネントを実行するために使用するオペレーティング・システム・アカウントの関連ディレクトリーおよびサブディレクトリーに対する読み取りおよび書き込みアクセス権限
- 編集する必要があるすべてのファイルに対する書き込み権限。
- インストール・ディレクトリーやアップグレード時のバックアップ・ディレクトリーなどの、ファイルを保存する必要があるすべてのディレクトリーに対する書き込み権限。
- インストーラーを実行するための適切な読み取り/書き込み/実行の権限。

Web アプリケーション・サーバーの管理パスワードを保持していることを確認してください。

UNIX の場合、IBM 製品のすべてのインストーラー・ファイルはフル権限 (例えば、`rwxr-xr-x`) が必要です。

JAVA_HOME 環境変数

IBM EMM 製品をインストールするコンピューターに **JAVA_HOME** 環境変数が定義されている場合、サポートされる JRE のバージョンがこの変数で指定されていることを確認してください。システム要件について詳しくは、「推奨ソフトウェア環境および最小システム要件」ガイドを参照してください。

JAVA_HOME 環境変数が JRE 1.7 を指していることを確認します。**JAVA_HOME** 環境変数が正しくない JRE を指している場合、IBM EMM インストーラーを実行する前に、その **JAVA_HOME** 変数をクリアする必要があります。

以下のいずれかの方法により、**JAVA_HOME** 環境変数をクリアできます。

- Windows: コマンド・ウィンドウで、**set JAVA_HOME=** (空のままにする) と入力して、Enter キーを押します。
- UNIX: 端末で、**export JAVA_HOME=** (空のままにする) と入力して、Enter キーを押します。

export JAVA_HOME= (空のままにする)

環境変数をクリアした後、IBM EMM インストーラーは、インストーラーにバンドルされている JRE を使用します。インストールの完了後、この環境変数を再設定できます。

Marketing Platform の要件

IBM EMM 製品をインストールまたはアップグレードする前に、Marketing Platform をインストールまたはアップグレードして構成する必要があります。一緒に機能す

る製品のグループごとに、Marketing Platform を 1 回だけインストールまたはアップグレードする必要があります。各製品インストーラーは、必要な製品がインストールされているかどうかを検査します。ご使用の製品またはバージョンが Marketing Platform に登録されていない場合、インストールを続行する前に、Marketing Platform をインストールまたはアップグレードすることを求めるメッセージが表示されます。「設定」>「構成」ページでプロパティを設定するには、その前に、Marketing Platform が配置済みであり、稼働している必要があります。

Campaign の要件

Contact Optimization をインストールまたはアップグレードする前に、Campaign をインストールまたはアップグレードして構成する必要があります。

注: UNIX にインストールする場合、Web アプリケーション・サーバーで、**Djava.awt.headless** プロパティを true に設定しなければならないことがあります。この設定は、Contact Optimization レポートを表示できない場合にのみ必要です。詳しくは、「IBM Campaign インストール・ガイド」を参照してください。

Contact Optimization は Campaign システム・テーブル・データ・ソースを使用するので、Contact Optimization 用に追加のデータ・ソースを準備する必要はありません。

Contact Optimization インストール・ワークシート

Contact Optimization システム・テーブルを含むデータベースに関する情報、および Contact Optimization のインストールに必要な他の IBM EMM 製品に関する情報を収集するには、Contact Optimization インストール・ワークシートを使用します。

Campaign データベース情報

Contact Optimization のインストール・ウィザードでは、Campaign システム・テーブル・データベースと通信して Contact Optimization テーブルを作成する必要があります。インストーラーで Contact Optimization データベース表をセットアップして Contact Optimization を構成できるようにするには、Campaign インストール済み環境に関する以下の情報を収集する必要があります。

表 5. Campaign データベース情報ワークシート

データベース情報	メモ
Campaign データベースが Unicode 用に構成されているか確認します	
Campaign データベース・タイプ データベース・タイプが DB2® で UNIX システム上にインストールされている場合には、DB2 インスタンス・パスを記します。 データベース・タイプが Oracle の場合、Oracle ホーム・ディレクトリー・パスを記します。	
Campaign データベース・ホスト名	

表 5. Campaign データベース情報ワークシート (続き)

データベース情報	メモ
Campaign データベース・ポート	
Campaign データベース名	
Campaign データベース・アカウントのユーザー名	
Campaign データベース・アカウントのパスワード	
Campaign データベースの JDBC 接続 URL インストーラーは、ユーザーが指定した値に基づいて接続 URL を提供します。ただし、その URL が正しいことを確認してください。	
Campaign Web アプリケーション・サーバーがインストールされているシステムの名前。	
Campaign アプリケーション・サーバーが listen するポート。 SSL を実装する予定の場合、SSL ポートについて情報を取得します。	
配置システムのネットワーク・ドメイン。	

注: Contact Optimization と Campaign が別々のシステムにインストールされている場合、Campaign インストール済み環境の Campaign ディレクトリーを Contact Optimization をホストするシステムにネットワーク・ドライブとしてマウントする必要はありません。CAMPAIGN_HOME が ACOServer.bat/.sh の OPTIMIZE_HOME を指すようにしてください。この変数は互換性を維持するために保持されており、OPTIMIZE_HOME に設定されます。この変数の値は変更しないでください。

Marketing Platform データベース情報

製品を登録するには、Contact Optimization インストール・ウィザードが Marketing Platform システム・テーブル・データベースと通信する必要があります。インストーラーを実行するたびに、Marketing Platform システム・テーブル・データベースの以下のデータベース接続情報を入力する必要があります。

- データベース・タイプ
- データベース・ホスト名
- データベース・ポート
- データベース名またはスキーマ ID
- データベース・アカウントのユーザー名とパスワード
- Marketing Platform データベースの JDBC 接続 URL。インストーラーは、ユーザーが指定した値に基づいて接続 URL を提供します。ただし、その URL が正しいことを確認してください。

インストーラーがシステム・テーブルを作成するようにする場合は、インストーラーが製品データベースに接続できるようにするための情報を提供する必要があります。

す。システム・テーブルを手動で作成するようにする場合は、データベース・クライアントを使用して、製品インストールに付属の SQL スクリプトを実行する必要があります。

Web コンポーネントに関する情報

Web アプリケーション・サーバー上に配置する Web コンポーネントが含まれる IBM EMM 製品すべてに関して、以下の情報を取得する必要があります。

- Web アプリケーション・サーバーがインストールされているシステムの名前。セットアップする IBM EMM 環境に応じて、Web アプリケーションは 1 つの場合も複数の場合もあります。
- アプリケーション・サーバーが listen するポート。SSL を実装する予定の場合、SSL ポートについて情報を取得します。
- 配置システムのネットワーク・ドメイン。例えば、example.com などです。

IBM サイト ID

製品インストーラーの「インストールする国」画面にリストされているいずれかの国で IBM EMM 製品をインストールする場合は、IBM サイト ID を該当する場所に入力する必要があります。IBM サイト ID は以下のいずれかの文書にあります。

- IBM ウェルカム・レター
- 技術サポートのウェルカム・レター
- ライセンス証書レター
- ソフトウェアの購入時に送信されたその他の情報

IBM はソフトウェアから提供されたデータを使用して、お客様がどのように製品を使用しているかを理解し、お客様サポートの改善に役立てています。収集されるデータには、個人を特定できる情報は含まれません。それらの情報を収集されたくない場合は、次の操作を行ってください。

1. Marketing Platform がインストールされたら、管理者権限を持つユーザーとして Marketing Platform にログインします。
2. 「設定」>「構成」に移動して、「プラットフォーム」カテゴリーの下の「Page Tagging を無効にする」プロパティを「True」にします。

IBM EMM 製品のインストール順序

複数の IBM EMM 製品をインストールまたはアップグレードする場合、それらを特定の順序でインストールまたはアップグレードする必要があります。

次の表に、複数の IBM EMM 製品をインストールまたはアップグレードする場合の順序に関する情報をまとめています。

表 6. IBM EMM 製品のインストールまたはアップグレードの順序

製品	インストールまたはアップグレードの順序
Campaign (eMessage あり/なし)	<ol style="list-style-type: none"> 1. Marketing Platform 2. Campaign <p>注: eMessage は、Campaign をインストールすると自動的にインストールされます。ただし、eMessage は Campaign インストール・プロセス時に構成されたり使用可能にされたりしません。</p>
Interact	<ol style="list-style-type: none"> 1. Marketing Platform 2. Campaign 3. Interact 設計時間環境 4. Interact ランタイム環境 5. Interact Extreme Scale サーバー <p>Interact 設計時間環境のみをインストールまたはアップグレードする場合は、Interact 設計時間環境を以下の順序でインストールまたはアップグレードします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Marketing Platform 2. Campaign 3. Interact 設計時間環境 <p>Interact ランタイム環境のみをインストールまたはアップグレードする場合は、Interact ランタイム環境を以下の順序でインストールまたはアップグレードします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Marketing Platform 2. Interact ランタイム環境 <p>Interact Extreme Scale サーバーのみをインストールする場合は、Interact Extreme Scale サーバーを以下の順序でインストールします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Marketing Platform 2. Interact ランタイム環境 3. Interact Extreme Scale サーバー
Marketing Operations	<ol style="list-style-type: none"> 1. Marketing Platform 2. Marketing Operations <p>注: Marketing Operations を Campaign と統合する場合は、Campaign もインストールする必要があります。これら 2 つの製品のインストール順序はどちらでも構いません。</p>
Distributed Marketing	<ol style="list-style-type: none"> 1. Marketing Platform 2. Campaign 3. Distributed Marketing
Contact Optimization	<ol style="list-style-type: none"> 1. Marketing Platform 2. Campaign 3. Contact Optimization

表 6. IBM EMM 製品のインストールまたはアップグレードの順序 (続き)

製品	インストールまたはアップグレードの順序
Opportunity Detect	<ol style="list-style-type: none"> 1. Marketing Platform 2. Opportunity Detect <p>Opportunity Detect が Interact と統合されている場合、製品を次の順序でインストールします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Marketing Platform 2. Campaign 3. Interact 4. Opportunity Detect
IBM SPSS® Modeler Advantage Marketing Edition	<ol style="list-style-type: none"> 1. IBM SPSS Modeler Advantage Marketing Edition

第 3 章 Contact Optimization のインストール

Contact Optimization のインストールを開始するには、IBM EMM インストーラーを実行する必要があります。IBM EMM インストーラーは、インストール・プロセスの間に、Contact Optimization インストーラーを開始します。IBM EMM インストーラーと製品インストーラーが同じ場所に保存されていることを確認してください。

IBM EMM スイート・インストーラーを実行するたびに、まず Marketing Platform システム・テーブルに関するデータベース接続情報を入力する必要があります。Contact Optimization インストーラーが開始するときに、Contact Optimization に関する必要な情報を入力する必要があります。

重要: Contact Optimization をインストールする前に、Contact Optimization をインストールするコンピューター上の使用可能な一時スペースが、Contact Optimization インストーラーのサイズの 3 倍を超えていることを確認してください。

インストール・ファイル

インストール・ファイルは、製品のバージョンおよびその製品をインストールする必要のあるオペレーティング・システム (UNIX を除く) に従って命名されます。UNIX の場合、X Window System モード用とコンソール・モード用の異なるインストール・ファイルが存在します。

次の表に、製品のバージョンとオペレーティング・システムに従って命名されたインストール・ファイルの例を示しています。

表 7. インストール・ファイル

オペレーティング・システム	インストール・ファイル
Windows: GUI およびコンソール・モード	<i>Product_N.N.N.N_win64.exe</i> 。ここで、 <i>Product</i> はご使用の製品の名前、 <i>N.N.N.N</i> はその製品のバージョン番号であり、ファイルのインストール先オペレーティング・システムは Windows 64 ビット版でなければなりません。
UNIX: X Window System モード	<i>Product_N.N.N.N_solaris64.bin</i> 。ここで、 <i>Product</i> はご使用の製品の名前、 <i>N.N.N.N</i> はその製品のバージョン番号です。
UNIX: コンソール・モード	<i>Product_N.N.N.N.bin</i> 。ここで、 <i>Product</i> はご使用の製品の名前、 <i>N.N.N.N</i> はその製品のバージョン番号です。すべての UNIX オペレーティング・システムで、このファイルをインストールに使用できます。

GUI モードを使用した Contact Optimization のインストール

Windows では、GUI モードを使用して Contact Optimization をインストールします。UNIX では、X Window System モードを使用して Contact Optimization をインストールします。

始める前に

重要: GUI モードを使用して Contact Optimization をインストールする前に、Contact Optimization をインストールするコンピューター上の使用可能な一時スペースが Contact Optimization インストーラーのサイズの 3 倍より大きいことを確認してください。

重要: IBM EMM 製品が分散環境にインストールされている場合、スイートに属するすべてのアプリケーションのナビゲーション URL では IP アドレスではなく、マシン名を使用する必要があります。また、クラスター環境で配置のために 80 または 443 とは別のポートをデフォルトとして使用する場合は、ナビゲーション URL にも変更を加えてデフォルトのポート番号を削除する必要があります。

IBM EMM インストーラーと Contact Optimization インストーラーが Contact Optimization のインストール先のコンピューターの同じディレクトリーにあることを確認してください。

Contact Optimization をインストールする前に、Marketing Platform および Campaign がインストールされていることを確認してください。Marketing Platform のインストールについて詳しくは、「*IBM Marketing Platform インストール・ガイド*」を参照してください。Campaign のインストールについて詳しくは、「*IBM Campaign インストール・ガイド*」を参照してください。

このタスクについて

GUI モードを使用して Contact Optimization をインストールするには、次の手順を実行します。

手順

1. IBM EMM インストーラーを保存したフォルダーに移動して、インストーラーをダブルクリックして開始します。
2. 最初の画面で「OK」をクリックして、「概要」ウィンドウを表示します。
3. インストーラーの指示に従い、「次へ」をクリックします。次の表の情報を参考にしながら、IBM EMM インストーラーの各ウィンドウで適切な操作を行います。

表 8. IBM EMM インストーラー GUI

ウィンドウ	説明
概要	<p>IBM EMM スイートのインストーラーの最初の画面です。Contact Optimization のインストールおよびアップグレードのガイドはこのウィンドウから開けます。また、インストール・ディレクトリーにインストーラーが保存されている製品についてのインストールおよびアップグレードのガイドへのリンクも表示されます。</p> <p>「次へ」をクリックして、次のウィンドウに進みます。</p>
応答ファイルの宛先	<p>製品の応答ファイルを作成するには、「応答ファイルを生成する」チェック・ボックスをクリックします。応答ファイルには、製品のインストールに必要な情報が保存されます。応答ファイルは、製品の自動インストールに使用できます。</p> <p>「応答ファイルの宛先」フィールドで、「選択」をクリックして応答ファイルの保存先とする宛先を参照します。「デフォルトのフォルダーに戻す (Restore Default Folder)」をクリックすると、応答ファイルはデフォルトの C:\% ロケーションに保存されます。</p> <p>「次へ」をクリックして、次のウィンドウに進みます。</p>
IBM EMM 製品	<p>「インストール・セット」リストから、「カスタム」を選択してインストール製品として Contact Optimization を選択します。</p> <p>「インストール・セット」エリアには、インストール・ファイルがコンピューター上の同じディレクトリーにあるすべての製品が表示されます。</p> <p>「説明」フィールドでは、「インストール・セット」エリアで選択した製品の説明を表示できます。</p> <p>「次へ」をクリックして、次のウィンドウに進みます。</p>

表 8. IBM EMM インストーラー GUI (続き)

ウィンドウ	説明
インストール・ディレクトリー	<p>「インストール・ディレクトリーを指定してください」フィールドで、「選択」をクリックして製品のインストール先とするディレクトリーを参照します。</p> <p>インストーラーが保存されているフォルダーに製品をインストールする場合は、「デフォルトのフォルダーに戻す (Restore Default Folder)」をクリックします。</p> <p>「次へ」をクリックして、次のウィンドウに進みます。</p>
アプリケーション・サーバーの選択	<p>インストール用のアプリケーション・サーバーを次の中から 1 つ選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • IBM WebSphere • Oracle WebLogic <p>「次へ」をクリックして、次のウィンドウに進みます。</p>
Platform データベースのタイプ	<p>適切な Marketing Platform データベース・タイプを選択します。</p> <p>「次へ」をクリックして、次のウィンドウに進みます。</p>
Platform データベース接続	<p>データベースに関する以下の情報を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • データベース・ホスト名 • データベース・ポート • データベース名またはシステム ID (SID) • データベース・ユーザー名 • データベースのパスワード <p>「次へ」をクリックして、次のウィンドウに進みます。</p>
Platform データベース接続 (続き)	<p>JDBC 接続を検討して確認します。</p> <p>「次へ」をクリックして、次のウィンドウに進みます。</p>
プリインストールの要約	<p>インストール・プロセス中に追加した値を検討して確認します。</p> <p>「インストール」をクリックしてインストール・プロセスを開始します。</p> <p>IBM Contact Optimization インストーラーが開きます。</p>

4. Contact Optimization インストーラーの指示に従い、Contact Optimization のインストールを開始します。次の表の情報を参考にしながら、Contact Optimization インストーラーをナビゲートし、IBM Contact Optimization インストーラーの各ウィンドウで適切な操作を行います。

表9. IBM Contact Optimization インストーラー GUI

ウィンドウ	説明
概要	<p>IBM Contact Optimization インストーラーの最初の画面です。このウィンドウからは、インストール・ガイド、アップグレード・ガイド、およびその他 Contact Optimization に関する使用可能なすべての資料を開けます。</p> <p>「次へ」をクリックして、次のウィンドウに進みます。</p>
ソフトウェアのご使用条件	<p>ご使用条件をよく読みます。ご使用条件を印刷するには、「印刷」を使用します。ご使用条件に同意したら、「次へ」をクリックします。</p>
インストール・ディレクトリー	<p>「選択」をクリックして Contact Optimization をインストールするディレクトリーを参照します。</p> <p>「次へ」をクリックして、次のウィンドウに進みます。</p>
Campaign データベース・セットアップ	<p>Campaign データベースをセットアップするための、次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 自動データベース・セットアップ • 手動データベース・セットアップ <p>「自動データベース・セットアップ」を選択したら、ご使用のシステム・テーブルが Unicode 用に構成されている場合は「Unicode SQL スクリプトの実行」を選択します。</p> <p>「次へ」をクリックして、次のウィンドウに進みます。</p>
Campaign データベース・セットアップ (Windows)	<p>適切なデータベース・タイプを選択します。</p> <p>「次へ」をクリックして、次のウィンドウに進みます。</p>

表9. IBM Contact Optimization インストーラー GUI (続き)

ウィンドウ	説明
Campaign データベース接続	<p>Campaign データベースの以下の詳細情報を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • データベース・ホスト名 • データベース・ポート • データベース・システム ID (SID) • データベース・ユーザー名 • パスワード <p>重要: IBM EMM 製品が分散環境にインストールされている場合、スイートに属するすべてのアプリケーションのナビゲーション URL では IP アドレスではなく、マシン名を使用する必要があります。また、クラスター環境で配置のために 80 または 443 とは別のポートをデフォルトとして使用する場合は、ナビゲーション URL にも変更を加えてデフォルトのポート番号を削除する必要があります。</p> <p>「次へ」をクリックして、次のウィンドウに進みます。</p>
JDBC 接続	<p>JDBC 接続を検討して確認します。</p> <p>「次へ」をクリックして、次のウィンドウに進みます。</p>
ContactOptimization 接続設定	<p>以下の接続設定を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ネットワーク・ドメイン・ネーム • ホスト名 • ポート番号 <p>必要に応じて「セキュア接続の使用」チェック・ボックスを選択します。</p> <p>「次へ」をクリックして、次のウィンドウに進みます。</p>
ContactOptimization ユーティリティー設定	<p>「JDBC ドライバー・クラスパス」フィールドで、JDBC ドライバー・クラスパスを入力します。</p> <p>「次へ」をクリックして、次のウィンドウに進みます。</p>
プリインストールの要約	<p>インストール・プロセス中に追加した値を検討して確認します。</p> <p>「インストール」をクリックして、Contact Optimization のインストールを開始します。</p>

表 9. IBM Contact Optimization インストーラー GUI (続き)

ウィンドウ	説明
インストール完了	<p>このウィンドウでは、インストール中に作成されたログ・ファイルのロケーションに関する情報が表示されます。</p> <p>「完了」をクリックして IBM Contact Optimization インストーラーを終了し、IBM EMM スイートのインストーラーに戻ります。</p>

5. IBM EMM インストーラーの指示に従い、Contact Optimization のインストールを完了させます。次の表の情報を参考にしながら、IBM EMM インストーラーの各ウィンドウで適切な操作を行います。

表 10. IBM EMM インストーラー GUI

ウィンドウ	説明
デプロイメント EAR ファイル	<p>「デプロイメントのために EAR ファイルを作成しません」をクリックします。</p> <p>注: Contact Optimization には Web アプリケーションがないため、Contact Optimization には EAR ファイルを作成しません。</p> <p>「次へ」をクリックして、次のウィンドウに進みます。</p>
インストール完了	<p>このウィンドウでは、インストール済み環境のインストール・ログ、エラー・ログ、および出力ログに関する情報が表示されます。</p> <p>「完了」をクリックして、IBM EMM インストーラーを終了します。</p>

Contact Optimization と EAR ファイルおよび WAR ファイル

Contact Optimization には、EAR ファイルと WAR ファイルはありません。Contact Optimization には、独立型の Web アプリケーションはありません。

Contact Optimization GUI 要素すべては Campaign Web アプリケーションに含まれています。インストール時に、Contact Optimization を Marketing Platform に登録することで、Contact Optimization のすべての機能が Campaign で使用できるようになる必要があります。

コンソール・モードを使用した Contact Optimization のインストール

コンソール・モードでは、コマンド・ライン・ウィンドウを使って Contact Optimization をインストールできます。コマンド・ライン・ウィンドウでは、各種オプションを選択して、インストールする製品の選択や、インストール用のホーム・ディレクトリーの選択などのタスクを実行できます。

始める前に

Contact Optimization をインストールする前に、必ず以下を構成しておいてください。

- アプリケーション・サーバー・プロファイル
- データベース・スキーマ

コンソール・モードでインストーラー画面を正しく表示するには、UTF-8 文字エンコードをサポートするように端末ソフトウェアを構成してください。ANSI などその他の文字エンコードではテキストが正しくレンダリングされず、そのエンコードでは一部の情報が読み取れなくなります。

手順

1. コマンド・ライン・プロンプト・ウィンドウを開いて、IBM EMM インストーラーと、Contact Optimization インストーラーを保存したディレクトリーにナビゲートします。
2. 以下のアクションのいずれか 1 つを実行して IBM EMM インストーラーを実行します。

- Windows の場合、次のコマンドを入力します。

```
ibm_emm_installer_full_name -i console
```

例: **IBM_EMM_Installer_9.1.1.0.exe -i console**

- Unix の場合、*ibm_emm_installer_full_name.sh* ファイルを呼び出します。

例: **IBM_EMM_Installer_9.1.1.0.sh**

3. コマンド・ライン・プロンプトに表示される指示に従ってください。コマンド・ライン・プロンプトでオプションを選択しなければならないときは、以下のガイドラインを使用します。
 - デフォルト・オプションはシンボル [X] で定義されます。
 - オプションを選択またはクリアするには、そのオプションに定義されている番号を入力して、Enter キーを押します。

例えば、インストール可能なコンポーネントが以下のリストに表示されていると想定します。

- 1 [X] Marketing Platform
- 2 [X] Campaign
- 3 Contact Optimization
- 4 Distributed Marketing

Distributed Marketing をインストールし、Campaign をインストールしない場合、コマンド **2,4** を入力します。

すると、選択したオプションが以下のリストのように表示されます。

- 1 [X] Marketing Platform
- 2 Campaign
- 3 Contact Optimization

4 [X] Distributed Marketing

注: Marketing Platform のオプションは、既にインストール済みである場合を除いて、クリアしないでください。

4. IBM EMM インストーラーは、インストール・プロセスの間に、Contact Optimization インストーラーを起動します。Contact Optimization インストーラーのコマンド・ライン・プロンプト・ウィンドウの指示に従ってください
5. Contact Optimization インストーラーのコマンド・ライン・プロンプト・ウィンドウで quit を入力すると、ウィンドウはシャットダウンします。IBM EMM インストーラーのコマンド・ライン・プロンプト・ウィンドウの指示に従って、Contact Optimization のインストールを完了します。

注: インストールの間にエラーが発生した場合、ログ・ファイルが生成されます。このログ・ファイルを表示するには、インストーラーを終了する必要があります。

Contact Optimization のサイレント・インストール

Contact Optimization を複数回インストールするには、無人モード (サイレント・モード) を使用します。

始める前に

Contact Optimization をインストールする前に、必ず以下の要素を構成しておいてください。

- アプリケーション・サーバー・プロファイル
- データベース・スキーマ

このタスクについて

サイレント・モードを使用して Contact Optimization をインストールするときには、インストール中に必要な情報を取得するために応答ファイルが使用されます。製品をサイレント・インストールするには、応答ファイルを作成する必要があります。応答ファイルは、以下のいずれかの方法によって作成できます。

- 応答ファイル作成時のテンプレートとして、サンプル応答ファイルを使用します。サンプル応答ファイルは、ご使用の製品インストーラーの ResponseFiles 圧縮アーカイブに含まれています。サンプル応答ファイルについて詳しくは、24 ページの『サンプル応答ファイル』を参照してください。
- 製品をサイレント・モードでインストールするには、その前に、GUI (Windows) モード、X Window System (UNIX) モード、またはコンソール・モードで製品インストーラーを実行します。IBM EMM スイート・インストーラー用の応答ファイルが 1 つ、製品インストーラー用の応答ファイルが 1 つ以上作成されます。ファイルは、ユーザーの指定したディレクトリー内に作成されます。

重要: セキュリティ上の理由から、インストーラーはデータベース・パスワードを応答ファイルに保存しません。応答ファイルを作成するときは、各応答ファイルを編集してデータベース・パスワードを入力する必要があります。各応答ファイルを開いて PASSWORD を検索し、この応答ファイルの編集を行う必要のある場所を見つけます。

サイレント・モードで実行するとき、インストーラーは順番に以下のディレクトリで応答ファイルを探します。

- IBM EMM インストーラーが保存されているディレクトリー内。
- 製品をインストールするユーザーのホーム・ディレクトリー内。

すべての応答ファイルを、必ず同じディレクトリーに入れてください。コマンド・ラインに引数を追加すると、応答ファイルが読み取られるパスを変更できます。例:
-DUNICA_REPLAY_READ_DIR="myDirPath" -f myDirPath/installer.properties

手順

Windows の場合は、次のコマンドを使用します。

- **IBM_EMM_installer_full_name -i silent**

以下に例を示します。

```
IBM_EMM_Installer_9.1.1.0_win.exe -i silent
```

Linux の場合は、次のコマンドを使用します。

- **IBM_EMM_installer_full_name_operating_system.bin -i silent**

以下に例を示します。

```
IBM_EMM_Installer_9.1.1_linux.bin -i silent
```

サンプル応答ファイル

Contact Optimization のサイレント・インストールをセットアップするため、応答ファイルを作成する必要があります。応答ファイルを作成する際には、サンプル応答ファイルを利用できます。サンプル応答ファイルは、インストーラーの ResponseFiles 圧縮アーカイブに含まれています。

次の表には、サンプル応答ファイルに関する情報が示されています。

表 11. サンプル応答ファイルの説明

サンプル応答ファイル	説明
installer.properties	IBM EMM マスター・インストーラーのサンプル応答ファイル。
installer_product initials and product version number.properties	Contact Optimization マスター・インストーラーのサンプル応答ファイル。 例えば、installer_ucn.n.n.n.properties (ここで、n.n.n.n はバージョン番号) は、Campaign インストーラーの応答ファイルです。
installer_report pack initials, product initials, and version number.properties	レポート・パック・インストーラーのサンプル応答ファイル。 例えば、installer_urpc.properties は、Campaign レポート・パック・インストーラーの応答ファイルです。

第 4 章 Contact Optimization の構成

Contact Optimization には、独立型の Web アプリケーションはありません。
Campaign をインストールし、インストール済み環境を構成、配置、検証したら、
Contact Optimization を構成してください。

Contact Optimization システム・テーブルの作成とデータの設定を手動で行う

インストール時に、Contact Optimization インストーラーは Campaign システム・テーブルにアクセスして Contact Optimization システム・テーブルを自動的に作成します。システム・テーブルが自動的に作成されない場合、Contact Optimization SQL スクリプトを該当するデータベースに対して実行して、Contact Optimization システム・テーブルの作成とデータの設定を手動で行う必要があります。

このタスクについて

以下の手順を実行して、Contact Optimization システム・テーブルの作成とデータの設定を手動で行います。

手順

1. Contact Optimization システム・テーブルを作成して、これにデータを設定するには、SQL スクリプトを Campaign システム・テーブルが入っているデータベースまたはスキーマに対して実行します。

これらの SQL スクリプトは、Contact Optimization インストール済み環境の下の `ddl` ディレクトリーにあります。

2. Campaign システム・テーブルが Unicode 用に構成されている場合、Contact Optimization インストール済み環境の下の `ddl/unicode` ディレクトリーにある適切なスクリプトを使用してください。

以下の表にある情報を使用して、適切なスクリプトをデータベースに対して実行して Contact Optimization システム・テーブルを手動で作成します。

表 12. Contact Optimization システム・テーブルを作成するためのスクリプト：

データ・ソース・タイプ	スクリプト名
IBM DB2	<code>aco_systab_db2.sql</code>
Microsoft SQL Server	<code>aco_systab_sqlsvr.sql</code>
Oracle	<code>aco_systab_ora.sql</code>

Contact Optimization テーブルにデータを読み込むためのスクリプトは **aco_populate_tables.sql** の 1 つだけです。テーブルにデータを設定するために使用する **aco_populate_tables.sql** スクリプトに相当する Unicode のスクリプトはありません。

Contact Optimization を手動で登録する

Contact Optimization を Marketing Platform に登録すると、メニュー項目をインポートしたり構成プロパティを設定したりできます。Contact Optimization インストーラーがインストール・プロセス時に Marketing Platform システム・テーブルにアクセスできない場合は、**configTool** ユーティリティを実行して手動で Contact Optimization を登録する必要があります。

このタスクについて

configTool ユーティリティをファイルの数と同じ回数実行します。**configTool** ユーティリティは、Marketing Platform インストール済み環境の下の `tools/bin` ディレクトリにあります。

ガイドラインとして以下のサンプル・コマンドを使用して手動で Contact Optimization を登録します。

- **configTool -i -p "Affinium|suite|uiNavigation|mainMenu|Campaign" -f "full_path_to_optimize_installation_directory%conf%optimize_navigation.xml"**
- **configTool -v -i -o -p "Affinium|Campaign|about|components" -f "full_path_to_optimize_installation_directory%conf%optimize_subcomponent_version.xml"**

すべての Contact Optimization 構成プロパティは Campaign に組み込まれているので、構成プロパティを登録する必要はありません。

Contact Optimization 構成プロパティを手動で設定する

Contact Optimization リスナーの構成プロパティを設定します。Contact Optimization インストールのホスト・サーバーの名前とポートを設定できます。Marketing Platform サーバーに SSL を使用して接続するように Contact Optimization を構成できます。

このタスクについて

インストール処理時に Contact Optimization インストーラーが Marketing Platform システム・テーブルにアクセスできない場合、インストーラーにエラー・メッセージが表示されます。インストール処理は続行しますが、「設定」 > 「構成」から Contact Optimization 構成プロパティを手動で設定してください。

必要に応じて、「キャンペーン」 > 「**unicaACOListener**」カテゴリーの下の、以下の Contact Optimization 構成プロパティを手動で設定してください。

- **serverHost**
- **serverPort**

- useSSL

ACOOptAdmin ツールの構成

ACOOptAdmin ツールを構成して、Contact Optimization セッションをコマンド行から実行するようにします。

このタスクについて

以下の手順を実行して ACOOptAdmin ツールを構成します。

手順

1. ACOOptAdmin.sh ファイル (UNIX) または ACOOptAdmin (Windows) ファイルを開きます。ファイルは、Contact Optimization インストール・ディレクトリーの bin ディレクトリーにあります。
2. **JAVA_HOME** を編集して、[Change Me] を Web アプリケーション・サーバーで使用する Java ディレクトリーへのパスに置き換えます。
3. ファイルを保存して閉じます。
4. Web アプリケーション・サーバーの始動スクリプトに、**JAVA_OPTIONS** 変数を追加するか編集します。以下のオプションを追加して、ACOOptAdmin ツールを Windows および UNIX の SSL 環境で構成します。
 - **-Djavax.net.ssl.keyStoreType=keyStoreTypeValue**
 - **-Djavax.net.ssl.keyStore=<keyStoreValue>**
 - **-Djavax.net.ssl.keyStorePassword=<keyStorePasswordValue>**
 - **-Djavax.net.ssl.trustStore=<trustStoreValue>**
 - **-Djavax.net.ssl.trustStorePassword=<trustStorePasswordValue>**

中国語、日本語、または韓国語のユーザー用の Contact Optimization の構成

中国語、日本語、または韓国語の文字が含まれるユーザー名で Contact Optimization を使用する場合は、Contact Optimization AC0server ファイルを変更します。

このタスクについて

以下の手順で、Contact Optimization を中国語、日本語、または韓国語ユーザー用に構成します。

手順

1. Contact Optimization サーバー・ファイルを開きます。AC0server ファイルは、Contact Optimization インストール・ディレクトリーの bin ディレクトリーにあります。
2. コメントを削除して、**UNICA_ACSYSENCODING** 環境変数が UTF-8 になるように設定します。

Windows: AC0server.bat 内の以下の行の前にある @rem を削除します。

```
@rem set UNICA_ACSYSENCODING=UTF-8
```


UNIX: AC0server.sh の以下の行の前にある # を削除します。

```
#UNICA_ACSYSENCODING=UTF-8
#export UNICA_ACSYSENCODING
```

3. ファイルを保存して閉じます。
4. Contact Optimization サーバーが実行中の場合は、新しいコンソール・ウィンドウで Contact Optimization サーバーを再始動します。

Contact Optimization サーバーの始動

Contact Optimization を使用するには、Contact Optimization サーバーを始動する必要があります。AC0server スクリプトを実行して、Contact Optimization サーバーを始動します。

このタスクについて

以下の手順を実行して、Contact Optimization サーバーを始動します。

手順

1. Contact Optimization サーバーを始動するには、AC0server スクリプトを実行します。AC0server スクリプトは、Contact Optimization インストール済み環境の bin ディレクトリーにあります。以下のコマンドを使用して AC0server スクリプトを実行します。
 - Windows の場合: **AC0Server.bat start**
 - UNIX の場合: **./AC0Server.sh start**
2. AC0server プロセスが実行されているかを確認するには、Windows タスク・マネージャーを使用するか、UNIX システムの **ps -ef | grep unica_aolsnr** コマンドを使用します。

Contact Optimization のテーブルのマッピング

Contact Optimization システム・テーブル、コンタクト履歴テーブル、およびセグメント・メンバーシップ・テーブルを Campaign テーブルにマッピングすることで、Contact Optimization と Campaign の間でデータを交換することができます。

このタスクについて

注: 戦略的セグメントで使用する Campaign 内のセグメント・メンバーシップ・システム・テーブルのマッピングはオプションです。オーディエンスのセグメント・メンバーシップ・システム・テーブルをマッピングするのは、戦略的セグメントを使用するフローチャートまたは Contact Optimization セッションでオーディエンスを使用する場合だけにしてください。

Campaign のシステム・テーブルのマッピングについて詳しくは、「*IBM Campaign 管理者ガイド*」を参照してください。

以下の手順を実行して、Contact Optimization のテーブルのマッピングを行います。

手順

1. すべてのシステム・テーブルをマッピングします。
2. すべてのコンタクト履歴テーブルをマッピングします。

Campaign 構成内の各オーディエンス・レベルにコンタクト履歴テーブルがあることを確認します。コンタクト履歴テーブルそれぞれをマッピングする必要があります。追加のコンタクト履歴テーブルについては、「*IBM Campaign 管理者ガイド*」を参照してください。

3. オプション: 戦略的セグメントを使用する Contact Optimization セッション内で使用されるオーディエンスごとに、オーディエンスのセグメント・メンバーシップ・システム・テーブルを、セグメント・メンバーを定義するデータベース表にマッピングします。

戦略的セグメントを使用する場合の要件は以下の通りです。

戦略的セグメントを使用する予定の場合、Campaign 構成の各オーディエンス・レベルに対してセグメント・メンバーシップ・テーブルがあることを確認してください。それぞれのセグメント・メンバーシップ・テーブルをマッピングする必要があります。

オーディエンス・セグメント・メンバーシップ・テーブルに 2 つのインデックスを作成します。最初のインデックスは SegmentID に、2 番目のインデックスはオーディエンス・レベル列に作成します。出荷時の UA_SegMembership テーブルは、CustomerID と SegmentID にインデックスが設定されています。

システム・テーブルと戦略的セグメントについては、「*IBM Campaign 管理者ガイド*」を参照してください。

Contact Optimization システム・テーブル・マッピングのリファレンス

Contact Optimization を Campaign と統合するには、すべての Contact Optimization システム・テーブルを Campaign テーブルにマッピングします。

Campaign の Contact Optimization テーブルをマッピングすることで、Contact Optimization と Campaign の間でデータを交換することができます。すべての Contact Optimization システム・テーブル、コンタクト履歴テーブル、およびセグメント・メンバーシップ・テーブルを Campaign テーブルにマッピングします。

以下の表を参考にして、Contact Optimization システム・テーブルと対応するデータベース表に関する情報を収集します。

表 13. Contact Optimization システム・テーブル・マッピング

Contact Optimization システム・テーブル	データベース表
Optimize セッション・テーブル	UACO_OptSession
Optimize プロセス・テーブル	UACO_OptimizeProcess
Optimize 実行履歴テーブル	UACO_SesnRunHist
Optimize セッション・セグメント・テーブル	UACO_SesnSegment
Optimize オファー・セグメント・テーブル	UACO_OfferSeg

表 13. Contact Optimization システム・テーブル・マッピング (続き)

Contact Optimization システム・テーブル	データベース表
Optimize セッション・オファー・テーブル	UACO_SesnOffer
Optimize ルール・テーブル	UACO_Rule
Optimize 例外ルール・テーブル	UACO_RException
Optimize 例外ルール制約テーブル	UACO_RExConstraint
Optimize ルール制約テーブル	UACO_RConstraint
Optimize ルール・オファー・リスト・テーブル	UACO_ROfferList
Optimize ルール・オファー・テーブル	UACO_ROffer
Optimize ルール・セグメント・テーブル	UACO_RSegment
Optimize 推奨コンタクト・ベース・テーブル	UACO_PCTBase
Optimize 推奨属性ベース・テーブル	UACO_POABase
Optimize 最適化済みコンタクト・ベース・テーブル	UACO_OCTBase

Contact Optimization コンタクト履歴テーブル・マッピングのリファレンス

Contact Optimization を Campaign と統合するには、すべての Contact Optimization コンタクト履歴テーブルを Campaign テーブルにマッピングします。

以下の表は、Contact Optimization コンタクト履歴テーブルとそれらに対応するデータベース表をリストしています。

表 14. Contact Optimization コンタクト履歴テーブル・マッピング

コンタクト履歴テーブル	データベース表
顧客コンタクト履歴テーブル	UA_ContactHistory
顧客詳細コンタクト履歴テーブル	UA_DtlContactHist

追加するオーディエンス・レベル・テーブルの名前は、Contact Optimization の構成ごとに固有です。

Contact Optimization のインストールの検証

Contact Optimization が正しくインストールされている場合、Campaign バッチ・フローチャートをビルドする際に Campaign で Optimize プロセスを使用できるはずです。これを確認するには、IBM EMM にログインして、「**Campaign**」 > 「**Contact Optimizations**」にアクセスできることを確認します。

始める前に

注: Contact Optimization が正しくインストールまたはアップグレードされていることを確認する前に、**Affinium|Campaign|acoInstalled** プロパティが true に設定されていることを確認してください。**Affinium|Campaign|acoInstalled** が false に設定されていると、Contact Optimization がインストールされていないことを示すエラー・メッセージが出ます。

このタスクについて

Contact Optimization テーブルを Campaign テーブルにマッピングした後、IBM EMM コンソールからログアウトしてからログインしないと「**Campaign**」 > 「**Contact Optimizations**」が表示されないことがあります。

以下の手順を実行して、Contact Optimization のインストールを検証します。

手順

1. IBM EMM コンソールにログインします。
2. メニューから「**Contact Optimizations**」を選択します。「Contact Optimization セッション一覧」ページが表示されます。Contact Optimization セッションが表示され、管理できるようになっていることを確認します。

第 5 章 Contact Optimization の複数パーティションの構成

Campaign 製品ファミリーでは、パーティションは、異なるユーザー・グループに関連付けられているデータを保護する手段となります。 Campaign または関連する IBM EMM アプリケーションを複数のパーティションで作業するように構成すると、ユーザーには、各パーティションがアプリケーションの別々のインスタンスとして表示されます。同じコンピューター上にある別のパーティションの存在が示されることはありません。

複数パーティションの動作

IBM EMM アプリケーションを Campaign と一緒に操作する場合、アプリケーションを構成できるのは、Campaign インスタンスが構成されているパーティションです。各パーティション内のアプリケーション・ユーザーは、同じパーティション内の Contact Optimization 用に構成されている Contact Optimization 機能、データ、顧客テーブルにアクセスできます。

パーティションの利点

複数パーティションは、ユーザーのグループ間に強力なセキュリティーを設定する場合に便利です。各パーティションには、独自の Contact Optimization システム・テーブルのセットがあるためです。複数パーティションは、複数のユーザー・グループ間でデータを共有したい場合には使用できません。

各パーティションには、独自の構成設定があり、ユーザーのグループごとに Contact Optimization をカスタマイズできます。ただし、すべてのパーティションが同じインストール・バイナリーを共有します。すべてのパーティションで同じバイナリーを共有していれば、複数パーティションのインストールやアップグレードに要する労力を最小限にすることができます。

パーティションのユーザー割り当て

パーティションへのアクセスは、Marketing Platform グループのメンバーシップを介して管理されます。

パーティションのスーパーユーザー (platform_admin) を除き、各 IBM ユーザーは、1 つのパーティションにしか設定できません。複数のパーティションにアクセスする必要のあるユーザーは、それらのパーティションごとに個別の IBM ユーザー・アカウントを持つ必要があります。

Contact Optimization パーティションが 1 つしかない場合は、Contact Optimization にアクセスするためにそのパーティションにユーザーを明示的に割り当てる必要はありません。

パーティション・データへのアクセス

複数パーティション構成では、パーティションには次のようなセキュリティーの特性があります。

- パーティションに割り当てられているグループのメンバー以外のユーザーは、そのパーティションにアクセスできない。
- あるパーティションのユーザーは、別のパーティションのデータを参照したり変更したりすることができない。
- ユーザーは Contact Optimization の参照ダイアログ・ボックスから、割り当てられているパーティションのルート・ディレクトリーより上の Contact Optimization ファイル・システムにはナビゲートできない。例えば、partition1 および partition2 という名前の 2 つのパーティションがあり、ユーザーが partition1 に関連付けられたグループのメンバーである場合は、ダイアログ・ボックスから partition2 のディレクトリー構造にはナビゲートできません。

Contact Optimization の複数パーティションのセットアップ

Contact Optimization で複数パーティションを使用して、ユーザーのグループごとにそれぞれ異なる Contact Optimization および Campaign データのセットにアクセスできるようにします。

このタスクについて

Contact Optimization をインストールすると、Contact Optimization インストールの ContactOptimization/partitions ディレクトリーの下に、デフォルト・パーティション partition1 が作成されます。同じディレクトリー内に追加のパーティションを作成できます。

注: バックアップとして、オリジナルの partition1 ディレクトリーのクリーン・コピーを保存します。

複数パーティションを使用するように Contact Optimization を構成する場合、Campaign も複数パーティションを使用するように構成する必要があります。Contact Optimization 用に作成するパーティションの名前は、Campaign 用に作成した対応するパーティションと正確に一致している必要があります。

以下の手順を実行して、Contact Optimization 用の複数パーティションをセットアップします。

手順

1. Campaign パーティションを作成します。
2. Contact Optimization インストールの partitions ディレクトリーに、Campaign で作成したパーティションごとにディレクトリーを 1 つずつ作成します。

例えば、Campaign に partition2 を作成したら、ContactOptimization/partitions/partition2 ディレクトリーを作成する必要があります。

3. ContactOptimization/partitions/partition1 ディレクトリーの内容を、そのすべての (空の) サブディレクトリーと共に、新しいパーティション用に作成したディレクトリーにコピーします。

例えば、partition1 ディレクトリーの内容を ContactOptimization/partitions/partition2 ディレクトリーにコピーします。

4. 新しく作成したディレクトリーのいずれかのサブディレクトリーが空ではない場合、そのサブディレクトリー内のすべてのファイルを削除します。
5. SQL スクリプトを実行して、新しいパーティション用に構成されたデータベース内に Contact Optimization システム・テーブルを作成して、データを設定します。

SQL スクリプトの実行について詳しくは、25 ページの『Contact Optimization システム・テーブルの作成とデータの設定を手動で行う』を参照してください。

6. 作成する必要があるパーティションごとに、手順 2 から 5 までを繰り返します。開始点として、一番新しく作成されたディレクトリーを使用してください。

タスクの結果

注: デフォルトでは、パーティションは ContactOptimization/partitions ディレクトリーにインストールされます。Contact Optimization のデフォルト・ディレクトリーを変更したり、パーティションを指定するディレクトリーを変更したりできます。

複数パーティションにおける ACOServer の構成

ACOServer スクリプトを使用して、パーティションのデフォルトのロケーションを変更することができます複数パーティションの場合、Contact Optimization が正しいパーティション・ディレクトリーを指している必要があります。

このタスクについて

Contact Optimization をインストールすると、*OPTIMIZE_HOME* で指定されたディレクトリーの下にデフォルトのパーティション・ディレクトリーが作成されます。このパーティション用のデフォルトのディレクトリーには、*partition1* というパーティションが 1 つ含まれています。Contact Optimization 構成で他のパーティションを作成するかどうかに関係なく、すべてのパーティションのデフォルトの場所を変更できます。

パーティションのホーム・ディレクトリーを変更するには、Contact Optimization サーバー・ファイルに **OPTIMIZE_PARTITION_HOME** 環境変数をオプションで設定できます。**OPTIMIZE_PARTITION_HOME** 変数は、パーティションのルートの場所を定義します。**OPTIMIZE_PARTITION_HOME** 変数を設定すると、デフォルト値がオーバーライドされます。

次のいずれかの方法で、Contact Optimization サーバー・ファイルの **OPTIMIZE_PARTITION_HOME** 環境変数を設定します。

手順

1. Windows: ACOServer.bat ファイルに以下の行を追加することで **OPTIMIZE_PARTITION_HOME** 環境変数を設定します。

```
set OPTIMIZE_PARTITION_HOME=C:%partitions
echo Using OPTIMIZE_PARTITION_HOME: %OPTIMIZE_PARTITION_HOME%
```
2. UNIX: ACOServer.sh ファイルに以下の行を追加することで **OPTIMIZE_PARTITION_HOME** 環境変数を設定します。

```
OPTIMIZE_PARTITION_HOME = /root_dir/work/partitions
export OPTIMIZE_PARTITION_HOME
echo "Using OPTIMIZE_PARTITION_HOME:"
$OPTIMIZE_PARTITION_HOME
```

第 6 章 Contact Optimization のアンインストール

Contact Optimization アンインストーラーを実行して、Contact Optimization をアンインストールします。Contact Optimization アンインストーラーを実行すると、インストール・プロセスの間に作成されたファイルが削除されます。例えば、構成ファイル、インストーラーの登録情報、およびユーザー・データなどのファイルがコンピューターから削除されます。

このタスクについて

IBM EMM 製品をインストールすると、アンインストーラーが `Uninstall_Product` ディレクトリーに組み込まれます。ここで、*Product* は IBM 製品の名前です。Windows の場合、「コントロール パネル」の「プログラムの追加と削除」リストにも項目が追加されます。

アンインストーラーを実行するのではなくインストール・ディレクトリー内のファイルを手動で削除すると、同じ場所に IBM 製品を後ほど再インストールする場合にインストール結果が不完全なものになる可能性があります。製品アンインストールの後でも、データベースは削除されません。アンインストーラーは、インストール中に作成されたデフォルト・ファイルのみを削除します。インストール後に作成または生成されたファイルは、削除されません。

注: UNIX の場合、Contact Optimization をインストールしたユーザー・アカウントを使用して、アンインストーラーを実行する必要があります。

手順

1. Contact Optimization リスナーを停止します。
2. システム・テーブル・データベースから Contact Optimization テーブルを削除するには、Contact Optimization インストール済み環境の `ddl` ディレクトリーで、**`aco_systab_drop.sql`** スクリプトを実行します。製品インストール・ディレクトリーに `ddl` ディレクトリーが既存である場合、その `ddl` ディレクトリーに用意されているスクリプトを実行して、システム・テーブル・データベースからテーブルを削除します。
3. 以下のいずれかのステップを実行して Contact Optimization をアンインストールします。
 - `Uninstall_Product` ディレクトリー内にある Contact Optimization アンインストーラーをダブルクリックします。アンインストーラーは、Contact Optimization をインストールする際に使用したモードで実行します。
 - コンソール・モードを使用して Contact Optimization をアンインストールする場合は、コマンド・ライン・ウィンドウで、アンインストーラーが存在するディレクトリーにナビゲートして、次のコマンドを実行します。

`Uninstall_Product -i console`

- サイレント・モードを使用して Contact Optimization をアンインストールする場合は、コマンド・ライン・ウィンドウで、アンインストーラーが存在するディレクトリーにナビゲートして、次のコマンドを実行します。

Uninstall_Product -i silent

サイレント・モードを使用して Contact Optimization をアンインストールする場合、アンインストール・プロセスでは、ユーザーとの対話用のダイアログが表示されません。

注: オプションを指定せずに Contact Optimization をアンインストールすると、Contact Optimization アンインストーラーは Contact Optimization のインストール時に使用されたモードで実行されます。

第 7 章 configTool

「構成」ページのプロパティおよび値は、システム・テーブルに保管されています。configTool ユーティリティを使用して、構成設定をシステム・テーブルにインポートしたり、システム・テーブルからエクスポートしたりできます。

configTool を使用する状況

configTool は、次のような場合に使用することがあります。

- Campaign と共に提供されるパーティションおよびデータ・ソース・テンプレートをインポートする場合。その後、それを「構成」ページで変更したり複製したりできます。
- 製品インストーラーによって自動的にプロパティをデータベースに追加できないときに IBM EMM 製品を登録 (構成プロパティをインポート) する場合。
- バックアップ用に XML バージョンの構成設定をエクスポートする、あるいは IBM EMM の別のインストール済み環境にインポートする場合。
- 「**カテゴリーの削除**」リンクのないカテゴリーを削除する場合。これを行うには、configTool を使用して構成をエクスポートし、カテゴリーを作成する XML を手動で削除してから、編集した XML を configTool を使用してインポートします。

重要: このユーティリティは、構成プロパティおよびそれらの値が含まれる Marketing Platform システム・テーブル・データベースの `usm_configuration` および `usm_configuration_values` テーブルを変更します。最適な結果を得るには、これらのテーブルのバックアップ・コピーを作成するか、configTool を使って既存の構成をエクスポートした結果のファイルをバックアップしてください。こうすると、configTool を使ってインポートするときにエラーが発生した場合でも、構成を復元することが可能です。

構文

```
configTool -d -p "elementPath" [-o]
```

```
configTool -i -p "parent ElementPath" -f importFile [-o]
```

```
configTool -x -p "elementPath" -f exportFile
```

```
configTool -vp -p "elementPath" -f importFile [-d]
```

```
configTool -r productName -f registrationFile [-o] configTool -u  
productName
```

コマンド

```
-d -p "elementPath" [o]
```

構成プロパティ階層のパスを指定して、構成プロパティとその設定を削除します。

エレメント・パスには、カテゴリおよびプロパティの内部名が使用されている必要があります。それらを得るには、「構成」ページの目的のカテゴリまたはプロパティを選択して、右のペインにある括弧内に示されているパスを確認します。構成プロパティの階層のパスを | 文字を使用して区切り、パスを二重引用符で囲みます。

次のことに注意してください。

- このコマンドで削除できるのは、アプリケーション内のカテゴリおよびプロパティのみで、アプリケーション全体は削除できません。アプリケーション全体を登録解除するには、`-u` コマンドを使用します。
- 「構成」ページに「**カテゴリの削除**」リンクのないカテゴリを削除するには、`-o` オプションを使用します。

`-d` を指定した `-vp` コマンドを使用する場合、`configTool` はユーザーが指定するパスにあるすべての下位ノードを削除します (これらのノードが、ユーザーの指定する XML ファイルに含まれていない場合)。

`-i -p "parentElementPath" -f importFile [o]`

指定した XML ファイルから構成プロパティおよびそれらの設定をインポートします。

インポートを行うには、カテゴリのインポート先とする親エレメントへのパスを指定します。`configTool` ユーティリティは、パスに指定するカテゴリの下にプロパティをインポートします。

最上位の下の任意のレベルにカテゴリを追加できますが、最上位カテゴリと同じレベルにカテゴリを追加することはできません。

親エレメント・パスには、カテゴリおよびプロパティの内部名が使用されている必要があります。それらを得るには、「構成」ページの必要なカテゴリまたはプロパティを選択して、右のペインにある括弧内に示されたパスを確認します。構成プロパティの階層のパスを | 文字を使用して区切り、パスを二重引用符で囲みます。

`tools/bin` ディレクトリーからの相対的なインポート・ファイル・ロケーションを指定するか、絶対ディレクトリー・パスを指定することができます。相対パスを指定する、あるいはパスを指定しない場合、`configTool` はまず `tools/bin` ディレクトリーから相対的な位置にあるファイルを探します。

デフォルトでは、このコマンドは既存のカテゴリを上書きしませんが、`-o` オプションを使用すると上書きを強制することができます。

`-x -p "elementPath" -f exportFile`

構成プロパティおよびその設定を、指定した名前の XML ファイルにエクスポートします。

すべての構成プロパティをエクスポートするか、構成プロパティ階層のパスを指定することで特定のカテゴリのみをエクスポートします。

エレメント・パスには、カテゴリおよびプロパティの内部名が使用されている必要があります。それらを得るには、「構成」ページの目的のカテゴリまたはプロパティを選択して右側のペインにある括弧内に示されたパスを確認します。構成プロパティの階層のパスを | 文字を使用して区切り、パスを二重引用符で囲みます。

現行ディレクトリーから相対のエクスポート・ファイル・ロケーションを指定するか、絶対ディレクトリー・パスを指定することができます。ファイル指定に区切り記号 (UNIX の場合は /、Windows の場合は \ または ¥) が含まれていない場合、configTool はファイルを Marketing Platform インストール済み環境の tools/bin ディレクトリーの下に作成します。xml 拡張子を指定しないと、configTool によって追加されます。

-vp -p "elementPath" -f importFile [-d]

このコマンドは、主に手動アップグレードにおける構成プロパティのインポートに使用されます。新しい構成プロパティが含まれるフィックスパックを適用し、その後にアップグレードする場合、手動アップグレード・プロセスの一部として構成ファイルをインポートすると、フィックスパックを適用したときに設定された値がオーバーライドされる場合があります。-vp コマンドを使用すると、インポートを行っても、それ以前に設定された構成値はオーバーライドされません。

重要: configTool ユーティリティーを -vp オプションを指定して使用したら、変更が適用されるように、Marketing Platform がデプロイされている Web アプリケーション・サーバーを再始動する必要があります。

-d を指定した -vp コマンドを使用する場合、configTool はユーザーが指定するパスにあるすべての下位ノードを削除します (これらのノードが、ユーザーの指定する XML ファイルに含まれていない場合)。

-r productName -f registrationFile

アプリケーションを登録します。登録ファイルのロケーションは、tools/bin ディレクトリーからの相対パスで指定することも、絶対パスで指定することもできます。デフォルトでは、このコマンドは既存の構成を上書きしませんが、-o オプションを使用すると上書きを強制することができます。productName パラメーターは、上記にリストされているうちのいずれかでなければなりません。

次のことに注意してください。

- -r コマンドを使用する場合、登録ファイルには XML 内の最初のタグとして <application> がある必要があります。

Marketing Platform データベースに構成プロパティを挿入するために使用できる他のファイルが、製品と一緒に提供されることがあります。これらのファイルには、-i コマンドを使用します。最初のタグとして <application> タグのあるファイルのみを -r コマンドと共に使用できます。

- Marketing Platform 用の登録ファイルは Manager_config.xml という名前と、最初のタグは <Suite> です。このファイルを新しいインストールに登録するには、

populateDb ユーティリティを使用するか、 Marketing Platform インストーラーを再実行します (「IBM Marketing Platform インストール・ガイド」を参照してください)。

- 最初のインストールの後、 Marketing Platform 以外の製品を再登録するには、 configTool を -r コマンドおよび -o を指定して実行して、既存のプロパティを上書きします。

configTool ユーティリティは、製品の登録または登録解除を行うコマンドのパラメーターとして製品名を使用します。 IBM EMM の 8.5.0 リリースにより、製品名の多くが変更されています。ただし、 configTool が認識する名前は変更されていません。 configTool で使用できる有効な製品名を、現在の製品名とともに以下にリストします。

表 15. configTool 登録および登録解除で使用する製品名

製品名	configTool で使用される名前
Marketing Platform	Manager
Campaign	Campaign
Distributed Marketing	Collaborate
eMessage	emessage
Interact	interact
Contact Optimization	Optimize
Marketing Operations	Plan
CustomerInsight	Insight
Digital Analytics for On Premises	NetInsight
Opportunity Detect	Detect
Leads	Leads
IBM SPSS Modeler Advantage Enterprise Marketing Management Edition	SPSS
Digital Analytics	Coremetrics

-u *productName*

productName で指定されているアプリケーションを登録解除します。製品カテゴリーにパスを含める必要はありません。製品名は必須で、それのみで十分です。この処理は、製品のすべてのプロパティおよび構成設定を削除します。

オプション

-o

-i または -r と共に使用すると、既存のカテゴリーまたは製品登録 (ノード) を上書きします。

-d と共に使用すると、「構成」ページに「**カテゴリーの削除**」リンクがないカテゴリー (ノード) を削除することができます。

例

- Marketing Platform インストール済み環境の下の `conf` ディレクトリーの `Product_config.xml` という名前のファイルから構成設定をインポートします。

```
configTool -i -p "Affinium" -f Product_config.xml
```

- 提供された Campaign データ・ソース・テンプレートをデフォルトの Campaign パーティション `partition1` にインポートします。この例では、ユーザーが Oracle データ・ソース・テンプレート `OracleTemplate.xml` を Marketing Platform インストール済み環境の下の `tools/bin` ディレクトリーに置くことを想定しています。

```
configTool -i -p "Affinium|Campaign|partitions|partition1|dataSources" -f OracleTemplate.xml
```

- すべての構成設定を `D:\%backups` ディレクトリーの `myConfig.xml` という名前のファイルにエクスポートします。

```
configTool -x -f D:\%backups%myConfig.xml
```

- 既存の Campaign パーティション (データ・ソース・エントリーを含む) をエクスポートし、それを `partitionTemplate.xml` という名前のファイルに保存し、それを Marketing Platform インストール済み環境の下のデフォルトの `tools/bin` ディレクトリーに保存します。

```
configTool -x -p "Affinium|Campaign|partitions|partition1" -f partitionTemplate.xml
```

- Marketing Platform インストール済み環境の下のデフォルトの `tools/bin` ディレクトリーにある `app_config.xml` という名前のファイルを使用して、`productName` という名前のアプリケーションを手動で登録して、このアプリケーションの既存の登録を上書きするように強制します。

```
configTool -r product Name -f app_config.xml -o
```

- `productName` という名前のアプリケーションを登録解除します。

```
configTool -u productName
```

IBM 技術サポートに問い合わせる前に

資料を参照しても解決できない問題が発生した場合は、貴社の指定サポート窓口の方が IBM 技術サポートに問い合わせることができます。以下のガイドラインを使用して、問題が効果的かつ成功裏に解決するようにしてください。

貴社の指定のサポート窓口以外の方は、必要な情報についてお客様の IBM 管理者にお問い合わせください。

注: 技術サポートが API スクリプトを記述したり作成したりすることはありません。API オファリングを実装するための支援が必要な場合は、IBM Professional Services に連絡してください。

収集する情報

IBM 技術サポートに問い合わせる前に、以下の情報を収集してください。

- 問題の性質についての簡単な説明。
- 問題発生時に表示される詳細なエラー・メッセージ。
- 問題を再現するための詳細な手順。
- 関連したログ・ファイル、セッション・ファイル、構成ファイル、およびデータ・ファイル。
- 『システム情報』で説明されている方法で取得できる、製品とシステム環境に関する情報。

システム情報

IBM 技術サポートにお問い合わせいただいた際に、お客様の環境に関する情報の提供をお願いすることがあります。

生じている問題によってログインが妨げられていなければ、この情報の多くを、インストールされている IBM アプリケーションについての情報を示す「バージョン情報」ページから取得できます。

「バージョン情報」ページには、「ヘルプ」>「バージョン情報」と選択することでアクセスできます。「バージョン情報」ページにアクセスできない場合には、アプリケーションのインストール・ディレクトリーの下にある `version.txt` ファイルを調べてください。

IBM 技術サポートの連絡先情報

IBM 技術サポートに連絡する方法については、IBM 製品の技術サポートの Web サイト (http://www.ibm.com/support/entry/portal/open_service_request) を参照してください。

注: サポート要求を入力するためには、IBM アカウントを使用してログインする必要があります。このアカウントは、IBM 顧客番号とリンクされている必要があります。

す。アカウントを IBM 顧客番号と関連付ける方法については、Support Portal の「サポート・リソース」>「ライセンス付きソフトウェア・サポート」を参照してください。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510
東京都中央区日本橋箱崎町19番21号
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
170 Tracer Lane
Waltham, MA 02451
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することが

できます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

IBM、IBM ロゴ、および [ibm.com](http://www.ibm.com) は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

プライバシー・ポリシーおよび利用条件に関する考慮事項

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品（「ソフトウェア・オファリング」）では、製品の使用に関する情報の収集、エンド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のために、Cookie はじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。Cookie とは Web サイトからお客様のブラウザに送信できるデータで、お客様のコンピューターを識別するタグとしてそのコンピューターに保存されることがあります。多くの場合、これらの Cookie により個人情報が収集されることはありません。ご使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらの Cookie およびそれに類するテクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体的な事項をご確認ください。

このソフトウェア・オファリングは、展開される構成に応じて、セッション管理、お客様の利便性の向上、または利用の追跡または機能上の目的のために、それぞれのお客様のユーザー名、およびその他の個人情報を、セッションごとの Cookie および持続的な Cookie を使用して収集する場合があります。これらの Cookie は無効にできますが、その場合、これらを有効にした場合の機能を活用することはできません。

Cookie およびこれに類するテクノロジーによる個人情報の収集は、各国の適用法令等による制限を受けます。この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人情報を収集する機能を提供する場合、お客様は、個人情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライン等を遵守する必要があります。これには、エンド・ユーザーへの通知や同意取得の要求も含まれますがそれらには限られません。

お客様は、IBM の使用にあたり、(1) IBM およびお客様のデータ収集と使用に関する方針へのリンクを含む、お客様の Web サイト利用条件（例えば、プライバシー・ポリシー）への明確なリンクを提供すること、(2) IBM がお客様に代わり閲覧者のコンピューターに、Cookie およびクリア GIF または Web ビーコンを配置することを通知すること、ならびにこれらのテクノロジーの目的について説明するこ

と、および (3) 法律で求められる範囲において、お客様または IBM が Web サイトへの閲覧者の装置に Cookie およびクリア GIF または Web ビーコンを配置する前に、閲覧者から合意を取り付けること、とします。

このような意図による、クッキーを含めたさまざまなテクノロジーの使用に関する情報は、「IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント」(<http://www.ibm.com/privacy/details/jp/ja>) の『クッキー、Web ビーコン、その他のテクノロジー』の節を参照してください。



Printed in Japan